

早出米供出旬別成績表

(十月十五日現在)

松代上町	十五日現在	十月十五日(上)
中町	三七俵	半期分目標數)
下町	四五	
小荒戸	三五	
太 平	三〇	
菅 刈	二五	
田 刈	九	
小 屋	四六	
池之畑	一五	
下 山	一一	
千 年	二〇	
池 尻	三	
会 沢	一四	
清 水	三〇	
桐 山	三	
蓬 平	六三	
海 老	一三	
犬 伏	一〇五	
孟 地	一九	
片 山	一〇	
瀧 沢	四	
中 子	三六	
芋 島	一四	
合 計	七〇五	六一六

農業講座

★秋打ち用の堆肥について

今年には近年に稀な大旱魃のため天水田の大部分は由面に亀裂を生じたが本年度の収量に及ぼす影響は案じたより少なかつたけれども今秋より明春にかけての床締作業と其の後の水持ちが早魃田所持者の「づやみ」の一つであります。

そこで一部には降雪直前に秋打ちをなし明春耕起することなく其の儘田植に移る場合もあること、考えられますので其の際今年堆積した未熟の堆肥を入れてしまつと明年度これが水田中に於て腐熟するため腐敗の際必要とする窒素分を得るために一諸に施した窒素肥料や土中の窒素分を利用するから、水稲に吸われる量がそれだけ減るため生育初期の発育が鈍り生殖生長期に入つてから堆肥の含有する窒素分と一旦腐敗の際吸収した窒素分が一時に吸収するため無効分が多くなり時には青立現象となつて有害の場合がある。前記の如く秋打ちの際本年度堆積した堆肥を施用しその儘田植をする場合は左記方法に依り腐敗を早めて腐熟度の進んだものを使つていただきたい。

すなわち堆肥は切返しの回数が多いほど腐熟が進行するから現在堆積してある堆肥を切返し堆積し直すことが大切で特に本村の草刈時期は比較的遅く本年度は早魃のため堆積材料たる野草が硬化しておるのでその必要がある尙積込の際は空気の流通をよく

して好気菌(空気のあるところでよく繁殖する細菌で堆肥速成の場合には特に必要なのである)の活動をさかんにし適度の水分(かたくなにぎつて指の間から水がにじみ出る程度)を與え原料を乾燥させた場合の目方の五%位の石灰を撒いて積込材料の質を軟かにして腐りやすくする。

また窒素含量が少く腐りにくいとき(萱藁等が多い場合)には硫酸安や下肥などをまいてその中の窒素分を細菌の食料として與えることなどが必要である(與える窒素の量は原料によつて異なるが萱、藁等の場合には原料の〇、三〇、四%位)積込の場合には今迄外側になつていた方を内側にし全体が一様に腐るようにすることが大切で高さもせい／＼五尺位とする。

それ以上高くすると重みで材料が密着し空気の流通が悪くなるから中間に土などもはさまぬ方がよい。

尙この作業は使用時期が差違つておるので一刻も早く行うことが大切である。

しかし、明春使用するのはこの様な特別の操作を必要とせず従来の方法で充分です。が特に本年度より必行願いたいことは堆肥の雨覆いで上部並周囲は是非雨覆いをかけ雨水の流入を防いでいただきたい。

せつかく腐熟した良質の堆肥を雨晒しにする時は肥料分は全部流失して水田に使用する時には堆肥の「かす」を施す結果となるのである。

農業改良普及員 若 月 佐 治 郎

★縣下一位を目指す

改良和牛品評會を終つて

◎一等は浦田へ、二等は犬伏へ

新潟縣下の改良和牛の産地は佐渡を除けば本郡であり、郡内では東部がその數に於ても質に於ても西部に勝れ従来は特に山平村が群を抜いておつた。

昭和二十二年八月当村で開催された縣下の登録研究会の際も本登録牛を一頭出して異彩を放ち毎年の和牛品評會には全場地元の松代村はいつも二、三位以下で入賞率も少く首位はもちろん優秀の牛と云えば悉く山平村のものであつた。

本村でもこの事実を鑑み昭和二十二年家畜増殖三ヶ年計画を樹立し家畜の増殖と質の改善を圖つて来たがなかなづく当村畜産で最も有望とされる改良和牛については当業者並一般飼育者の並々ならぬ御努力により爰二ヶ年の向上は実に自覺しいものがあつた。

今年の品評會は九月三十日當村で盛大に開催されたが當日は早朝から小雨が降り出し一時出品者並當事者にして落胆せしめたが其の後次第に天氣は回復して絶好の品評會日和となつた。

出品頭數は六十八頭(予想は四十五頭)内松代村二十八頭で、予定十五頭のところ二十八頭の出品は予想外だつた。總數の四十分の一を占め午前十一から午後五時迄長時間に亘る審査員の慎重公正な審査の結果一位は惜しくも浦田村に獲得されたが二位に一位三頭に三頭、四位に十頭、合計十四頭の入賞牛を出し、受賞二十八頭中其の半數を松代村から出し得たことは當村改良和牛が頭數質共に向上されたことを物語るものであります。

●本村の受賞者

- 一等 犬 伏 山 本 傳 次 郎
- 二等 太 平 柳 寅 吉
- 三等 片 桐 山 齋 藤 力 與
- 四 等 千 年 柳 藤 一 郎
- 菅 刈 柳 喜 三 次
- 松 代 石 口 達 雄
- 千 年 若 月 波 勢 三
- 千 年 佐 藤 利 平
- 菅 刈 柳 藤 一 郎
- 池 尻 若 井 三 好
- 池 之 畑 山 賀 吉 三 郎
- 松 代 關 谷 由 松
- 若 平 若 井 茂 一 郎

【若 月 佐 治 郎】

しかしこの成績を以つて満足すべきでなく更に數の増加と質の改善に努め明年からは品評會の一等は必ず松代村から出す氣概を持たなければなりません。

審査報告の時に改良和牛は其の目的が「使いよく、蕃殖に適し肥育に向く牛」にあるのだから其の点を十分考慮して今後一層精進する様話がありました。私共は今後の農業經營を考へ合せ四圍の山野と自家努力を十分に活用して和牛の改良増殖は勿論本村農業の一環としての家畜増殖に尙一層の努力をこめよう。

